

● 「サラダボウル」の国、アメリカ合衆国はビッグでした

団員 雲峰 広行

今回、初めてサクラメント市への姉妹都市交流、そして海外都市行政視察に参加させていただきました。

初めてのアメリカ渡航、9日間に渡る長期間の海外視察であり、どんな準備をすればいいのか、会話はどうすればいいのか、視察項目の事前勉強、質問項目のチェックなどいろいろ考えながら、さてどうなるのか不安のなかでの出発であった。

そして、日本を1月31日の夕方に発って、サンフランシスコ国際空港に1月31日の朝に着くという、17時間の時差を初めて体験した。実際これは、体調の管理が大変で、また、帰国後も同様であった。しかし、この9日間は、アメリカの大きさ、力強さを再認識した貴重な体験をさせていただきました。

アメリカ、この国は、私が想像もつかないほどの広大な大地と大自然があった。さらにその中で、多数の人種、そして数限りない人々の生活と文化があった。

同行されたガイドの方が、面白い表現でアメリカ社会を説明していた。「アメリカ社会は、サラダボウルです。つまりアメリカを構成する多人種、多民族の集団が、それぞれの伝統や文化の優れた



(ツインピークスから望むサンフランシスコ市内)

部分を出し合うことによって、より強く美しいアメリカ文化が育てていくという考え方で、例えば、トマト、レタス、キュウリのようなそれぞれの野菜が持ち味を出し合うことによって、全体としてのおいしい味ができあがるようにという考えから、サラダボウルと表現している。……」なるほどよくわかる。

そして、教育においても、それぞれの人種、民族の良さを共存しようという多文化主義を浸透させようとグローバルな大学も設立された。その一つが、今回の視察で訪問したUCLAであった。

アメリカの力強さを強烈に感じたこのUCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）は、カリフォルニア州立大学であり1919年に設置された。現在、約4,000人の教職員と約40,000人の学生が在籍している。アメリカにおける有数の学術拠点であり、世界の多くの分野に優秀な人材を輩出している。また、学生の出身地は全米50州、世界100カ国以上に及んでおり、キャンパスを歩いているだけでも、本当に多くの人種、民族の学生が歩いていた。広大な敷地に、大きな校舎、図書館、講堂がいくつも建てられており、最高の環境で学べるようになっていた。



(UCLAキャンパス)

日本のような単一民族国家ではないアメリカの強さの秘密は、多人種、多民族だからこそ、お互いのコミュニケーションを非常に大切にしているとのことであった。

違う人種、民族の人がコミュニケーションを図ることによって、さ

まざまなアイデアや戦略が打ち出され、政治においても、経済においても世界をリードする座に君臨してきたと言われていた。一方で、ガイドの方が「UCLAへの留学生は、日本人が減っていて、中国人、韓国人の留学生が急増している。」と嘆いておられた。「日本の若者の内向きが心配」とも言われていた。

我々日本人も、単一民族、一つの言語であることから、見過ごしてきたことが多いのではないかと。

このようなアメリカ社会と共存共栄するためには、日本の特色を前面に出しての国民レベルのコミュニケーションの必要性が大いに必要であると実感した。